

くもうちく事情からその事情、うちく事情ありてその事情、うちくに
はどうもなあといふ、みんなだんじしてはこばにやならん。

明治三十年十二月三日

郡山部内唐津布教所移轉願 (同町千百七十八番地へ)

さあく尋ねる事情く、事情はぜんくの事情、一つ又事情一時もつてかうとい
ふ、尋ねる事情はみんなそれくの心治まる理にてゆるしおかうく。

明治三十年十二月三日

山名部内城東支教會新十二月十六日鎮座祭十七日開筵式願

さあく尋ねる事情く、さあ事情はねがひどほりく、さあゆるしおかうく。

同支教會前の地所へ軍人死亡招魂碑建設願

さあく尋ねる事情、さあ心にまかせおかうく。

同部内五所川原擔任藤田十太郎の處青山佐助に變更願

さあく尋ねる事情く、事情はぜんくの事情、さあ一つ又一時もつてかうとい

ふ、尋ねる事情はそれくの心の理にてゆるしおかうく。

明治三十年十二月三日

北部内神戸港布教所設置願 (神戸市葺合村千五百五十三番ノ十五)

さあく尋ねる事情く、さあ事情はねがひどほりく、さあゆるしおかうく。

右地方廳へ出願の願

さあく尋ねる事情はすぐとく。

明治三十年十二月三日

城法部内白石布教所隣地合併地ならし願

さあくたづぬる事情く、事情はねがひどほりく、さあくゆるしおかうく。

明治三十年十二月五日

船場部内兒島支教會普請落成に付舊本月二十日御遷座二十一日落成式且大祭願

さあく尋ねる事情く、さあ事情はねがひどほりく、さあゆるしおかうく。

明治三十年十二月五日

三六二

河原町部内成岩出張所鎮座祭新本月七日開遠式八日に願

さあ〜尋ねる事情〜、事情はよぎなく一つ事情、尋ねる事情はねがひどほりゆるそ〜。

明治三十年十二月五日

宇佐部内由布々教所設置願 (大分縣速見郡北由布村百四十八番地、擔任古庄百彦)

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

右地方廳へ出願の願

さあ〜尋ねる事情はすぐと〜。

明治三十年十二月八日

河原町部内水口支教會長藤橋光治夏身上願 (四十歳)

さあ〜たづねる事情〜、どうも身上に心得ん〜、だん〜事情たづねる事情
いかなる事と一つ思ふ處、さあ〜たのしんでたのしんで十分たのしんでこした
る處、身上これはなあみな心に思ふ、たづねた事情さとしよ、よく事情き、わ
け、一人一名と思ふ、一名とおもへば心ちがふ、萬事の理にさとしよう、はしのは
しまでの心にさとしおかう、ようき、わけ、どういふ事かういふ事みなさとして心
をさまる、さとして心をさまれば十分の心一つ〜たづねる、どれだけおもたてお
もはず〜こらどうもならん、事情は一名一人の理であらうか、それ〜さき〜
の理であらうか思ふ、心得ん事情からたづねたらかういふさしづありたとみなさき
〜さとして道はおなじ一つの理、おなじ一つ道、千日一日よりはじめてそれより
しよらしい事情だん〜はこびくるなら末代とさとしたる、これみんなき、わけた
がひはこびやうてつたはつてきたる、道中につくしたものはたがひはこんでやらに
やならん、うづんでおいてはならん、どうせへでもかうせへでもふじい申むつか

し中つくした中にうもれはたぶんある、たがひはこんでやれ、はこんで十分これと
まんぞくすれば十分うけとる十分うけとる、ようき、わけ、道といふはいつまで一
つの道なにほどつくしたとてよそごといふてはならん、たれはどうといふ事はこれ
はいらん、これだけつたへておく、身上はあんじる事いらん、あんじたらあんじの
理がまはる、たがひたすけあひは萬一つくしてはこんでみんな心ではこんだらとい
へばいさむ日ある、十分たがひ／＼はこんでやるが十分、これだけさとしたら十分
わかるやろ。

明治三十年十二月九日

櫻井支教會普請落成に付舊十一月二十八日鎮座祭二十九日開筵式三十日大祭願

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあ事情はねがひどほり／＼、さあゆるしおかう／＼。

明治三十年十二月九日

郡山部内高座出張所説教舊七日二十七日願

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあ事情はねがひどほり／＼、さあゆるしおかう／＼。

同部内高宮出張所説教舊一日十一日二十一日願

さあ／＼尋ねる事情／＼、事情はねがひどほり／＼、さあ／＼ゆるしおかう／＼。

明治三十年十二月九日

高知部内菅田出張所祭日願 (月次祭舊三日説教舊三の日御紋鳴物、又舊十二月二日開始の願)

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあ事情はねがひどほり／＼、さあ／＼ゆるしおかう
／＼。

同部内長濱出張所祭日願 (月次祭舊五日説教舊五の日御紋鳴物、又舊十一月二十八日開始の願)

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあ事情はねがひどほり／＼、さあ／＼ゆるしおかう
／＼。

明治三十年十二月十一日

本部風呂新築願

さあ〜尋ねる處は、さあ〜それは何時なりとゆるしおかう〜。

三六六

明治三十年十二月十一日

平安支教會事情飯田、森木、上田等上京せしに付本部より運方如何して宜敷哉願

さあ〜尋ねる事情〜、事情にはかはつた事やなあ、へんな事やなあとおもふ處、ようおもふてみよ〜、まいよ〜の事情は、いくたびの事情に、どういふ事もさしづにおよんだる、こくげんにもさとしてある、だん〜けふの日たづねる、どういふ事やろ、できる事できたがすゑはどうやらうとおもふ、しやんせにやならん、かずかずのしやんするからどうもならん、わからんやうになる、第一のしやん、あちらがくもり、こちらがくもり、水がつく、そら大風といふ、一時もつて尋ねる處、事情にはすゑ〜の處、かゝりかゝりの事情、どうならうとおもふ、さきをもつて尋ねる、かきをせにやならんとおもふ、ようしやんしてみよ、一寸の事でもどうやらうとおもふ、なんにもしやんはいらん、しやんいらんといへば、ほつて

おいてよいとおもふ、ほつておいてよいとおもふ理を、たつた一つの道からできてきたる、はんぜんならん事情、あと〜どうならうとおもふやらう、上も下も中もきゝわけてみよ、なんにもあんじる事はいらん、せかいからはどういふ事情あるとはわからうまい、此道一つ是迄の事情、今一時の事情せかいの事情、どうりはおほきなものである、おほきい理といふものは、おほきいをさまりてない、をさまつてないから、かういふ事になる、しんばいして何も心にかける事いらん、よる〜はたらいた處が、そんなるやうなもの、道理をはづすからでけん、でけん道理に理をつけてはこぶからどうもならん、人間一つの心ではこんだ處がいかん、いかんからをさまらん、人道心とつてしまはにやならん、しんばいの上のしんばい、一つの道にあちらこちらから、くもりができてしんばいする、我子で我子のしめしてけんのは、親のちからのないのや、これは道理からとつてみよ、ちがふかちがはんか。

橋本清辭職は聞届けしが前川菊太郎より辭職願出られしに付如何取計ひまして宜敷哉願

三六七

さあ〜尋ねる事情〜、なにほどつなきたいとおもへどつながれんがどうりや、こすにこされようまい、でてきなといふやない、でてきてはたらきやどうもいへんがどうりや、みな一つの心になりてようしやんせよ、これまでかんなんのみち、今のみち、たがひの道、つらいものもあれば、陽氣なものもある、神がつれてとほる陽氣とめん〜かつての陽氣とある、かつての陽氣はとほるにとほれん、陽氣といふは、みんないさましてこそしんの陽氣といふ、めん〜たのしんで、あと〜のものくるしますやうでは、ほんとの陽氣とはいへん、めん〜かつての陽氣は、しやうがいとほれるとおもたらちがふて。

東京及夫々運び方願

さあ〜心さへ十人なら、十人一人の心と、おなじ心にかはらんなら、どこへどうする事はいらんもの、さしづをきいてゐるだけ、ほんにかうとおもふ、さき〜の處、一時はどういふ理になるかもわからうまい、ほんにわからうまい、あちらへうとほれる。

つす處きつたら、よいとわるいとわかつてあるやらう、みんなの心がそも〜であるからわからんや、しゆんをもつて一時みちをはこんだる、うつしたる、なんぼはこんだ處がなんにもならん、心といふ理一つをもつてとほれば、とほれん處でもとほれる。

前川菊太郎の辭職は此儘にしておいたものであります哉願

さあ〜やすむときはやすますがよいで〜。

御本席御身上願

さあ〜尋ねる事情〜、まあこれまでといふは、いさ、かきぶんがわるいといふ、これまでとき〜さとしてある、こくげんにもさとしてある、これまでちがふ事情はさとしてない、ながいみぢかいめん〜それ〜、心からとりかへるならかはらんさしづする、席の身上きぶんわるいといふ、きぶんわるいといふても、それ〜の心やすましてゐる、ようこれみんな一時に耳にはいり、心にをさまるならあ

んじはない、これまではかりがたないといへばさぶしいもの、ほんにとりちがへていたとおもふなら、あざやかしつかりしたものでや。

明治三十年十二月十一日

郡山部内長周出張所設置願 (山口縣阿武郡大島村五十番地)

さあ〜尋ねる事情〜、それ〜事情心にまかせて、事情ねがひどほりゆるしおかう〜。

右地方廳へ出願の願

尋ねる事情〜すぐと〜ゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十一日

城島部内赤瀬出張所擔任死亡に付藤田林三郎を後任に願

さあ〜〜尋ねる事情〜、前々よりの事情一條をもつての事情は、それ〜尋ねる事情は、さあゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十二日

平安支教會月次祭蓋二十八日の處二十四日に變更願

さあ〜尋ねる事情、さあ〜事情はねがひどほり〜ゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十三日

榊井伊三郎老母目の障りに付弟政治郎を引戻し安太郎出る事に付願

さあ〜尋ねる事情〜、事情だん〜それ〜あちらこちら事情たづねてる、とほくところたより〜どうでも一つ内に心得ん事情、尋ねる事情さとしおく、まあうち〜とほくところでこす處みやはせ、一つ事情さとしせにやならんものもある、一名一人よりさとする理たぶん〜事情ある、事情できかたない事情、あちらこちらの身のさはり、だん〜事情たてあひたてあふ〜、あちらこちらつくしかけてもまだ〜年々やう〜一つきる、わがみきるわかる、それ〜だんじあふき、わけ、だいじけん〜事情年限大事件どうかの事おもふ心がちがふ、神がしたのや

ないで、萬事さしづどほり刻限事情、なんにもこまる事情はない、みなこしらへて苦勞せにやならん、一つの理二つの理がある、つなぐ道きる道もある、はなし重々の理につたへ、くるものにくるなとはいはん、こんものにこいとはいはん、いつくのだいにさとしある、神とたゞ一つもこしらへる理はいらんで、一つくかたづけあきらかといふ一つ心のたのしみといふ心をさめ、内々事情は萬事あんじる、てこす處あんしんみせて一つ事情、一つの事情さとしおくがよい、さあさうやその日きて、若いが若いにたゝん、としがしまつてしまつたにたゝん、心一つ神一條の理をもつてれば、何にもあんじる事はいらん、これ一つさしづしておく。

明治三十年十二月十四日

高知部内富高出張所擔任内田金暎の處和田儀之助に願

さあく尋ねる事情く、事情はぜんく事情、一つ一時もつて事情かうといふ處、一つ尋ねる處くは、みなそれく心といふ理、をさまる理あつまる理にて一

つゆるしおかうく。

右出張所地方廳へ再願の願

さあく尋ねる事情く、ぜんくの事情は一時どうやつたかうやつた一時思ふ處、なれどおもふかうと云ふ精神一つ理、さあくゆるしおかうく。

明治三十年十二月十五日

北部内豊岡支教會部内整理の爲め高井猶吉、山中彦七之兩氏出張の願

さあくたづねる事情、それく處々、さあくみるにみられぬ理、萬事さしづといふ、みなその通りにせぬ、一時立越す、一寸事情には日がおくれきつてくならぬから、萬事の處にくもりがか、つておほなる、てこす處はよい理である、どう一つはこびにくい、これから一つしつかりといふ理がをさめたら、をひくまたついてくる、いま一時あざやかといふ理は一寸にはをさまらん、これみなえいはくといふておくれたる、さびてある日がおくれきり、どうもならん、しつかりき

とらねばならん、みなくそれくよくき、わけ。

明治三十年十二月十六日

東部内深川支教會新築落成に付新十二月二十六日假引遷願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情ぜん〜事情一つ一時事情かうといふ、あらためて事情、さあ事情ねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同部内峽田支教會新築落成に付新十二月二十四日移轉願

さあ〜尋ねる事情〜、さあぜん〜事情一つ一時もつて事情かうといふ處、さあ〜事情ねがひどほり〜さあ〜ゆるしおかう〜。

同部内江東出張所設置願 (東京府北多摩郡狛江村大字覺東三五六番地、擔任川合龜吉)

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同部内千山出張所設置願 (東京府北多摩郡千歲村大字鳥山二六七番地、擔任新坂龜藏)

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〜。

右二ヶ所地方廳へ出願の願

さあ〜尋ねる事情はすぐと〜。

同部内三芳出張所新築願

さあ〜尋ねる事情〜、事情はねがひどほりゆるしおかう、さあ〜心だけゆるすのやて、さあ〜ゆるしおかう〜。

同部内神代出張所新築願

さあ〜たづぬる事情〜、さあ事情ねがひどほり〜、さあ〜心にさあ、心だけゆるしおかう、さあ〜ゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十六日

高知部内愛吉出張所祭日願 (月次祭舊五日説教舊五日御紋鳴物、又舊十二月十日開始願)

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十六日

八木部内鷲家出張所舊十二月二日鎮座祭願

さあ〜尋ねる事情〜、事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十七日

兵神部内山神出張所鎮座祭舊十二月二日開筵式三日願（併て月次祭舊三日入社祭舊十五日説教八日二十一

日御紋鳴物願）

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

明治三十年十二月十八日

教長様櫻井支教會開筵式に付御出張被下事願

さあ〜たづねる事情〜、事情はゆるす、ゆるすがみなそれ〜心といふは、一時理があらう、そこでおもなるものはどこへもてるのやないで〜、みなだいをもつて〜。

明治三十年十二月十八日

郡山部内泉南支教會移轉願（同所大字野五百八十七番地へ）

さあ〜尋ねる事情〜、事情はぜん〜事情一つ、さあ一時事情もつてかうといふ事情は、みなそれ〜心それ〜の理をさまる處、さあ事情はねがひどほり、さあゆるそ〜。

明治三十年十二月十八日

河原町部内大野出張所普請願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

明治三十年十二月二十日

城島部内畝傍出張所移轉願（高市郡白樺村大字見瀬北口八十六番地へ）

さあ〜たづねる事情〜、さあ事情はぜん〜事情一つ事情、一時もつて尋ねる事情は、みなそれ〜心の理にてまかせおかう〜。

明治三十年十二月二十日

撫養部内北方布教所舊十二月十六日鎮座祭十七日開筵式願 (入社祭十七日説教二十八日願)

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〜。

同部内西香川出張所前地方廳より取消しに相成りし處今般擔任天満益右衛門にて出願の願

さあ〜尋ねる事情〜、どうもぜん〜の事情といふは、どういふ事である、それ〜心ある、ようき〜とつてしやん一つ處にてはどういふ事である、どうもおもはくちごたといふ、一時あらためて事情、どうでもかうでもなんでもといふ精神一つの理にゆるしおかう〜。

押して、これまでと同番地にて出願致し度願

さあ〜尋ねる事情は、みなそれ〜みんなあつまる處、理によつてゆるそ〜。

明治三十年十二月二十一日

北部内神原布教所増築願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はまかせおかう〜。

明治三十年十二月二十一日

河原町部内越乃國支教會鳴物御紋の處御許願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

同日、河原町部内栢山布教所入社祭舊十日説教一日二十一日鳴物等願

さあ〜たづねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同日、河原町部内鴨宮布教所入社祭十二日説教日二日二十二日並に鳴物願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同日、河原町部内狩野布教所入社祭舊八日説教同十八日二十八日並に鳴物等願

さあ〜たづねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同日、河原町部内内山布教所入社祭舊六日説教十六日二十六日並に鳴物願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情ねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜

明治三十年十二月二十二日

河原町部内九豊出張所擔任谷田實之助の處瀧口尙實に變更願

さあ〜尋ねる事情〜、さあぜん〜事情は一つさあ一時事情尋ねる處、一時尋ねる事情はよぎなく事情〜、萬事事情じゆん〜理ある、又だんじあひ重々はこの事情萬事事情はようき、わけ、一つ又道の事情一時尋ねる事情は何時にてもゆるしおかう、ゆるしおくが又一つだんじ萬事人三名そろへ萬事ゆるすが一つはこゝんで事情。

—(3996)—

明治三十年十二月二十三日夜

松村吉太郎、飯田岩治郎の件に付上京せし處其夜より右の足に出來物出來追々大きく相成るに付願

さあ〜尋ねる事情〜、身上に心得ん、どうも身上心得ん、事情尋ねる、たづねるから一寸さとしおかう、もうこれどうなる、かうなるといふ、日々心にかゝる

〜、又一つ事情まあ一寸心にかゝる、かゝるから出越して事情、中に身上心得んといふ、ようき、わけ、この道は、どういふ理から出たる、始まりの理さへ心にもてば、どんな事あつてもあんじる事はないで、しんじつさへ心にをさまれば、あんぜは一つもいらん、中に一つはなす事がある、切つてはなしおく、めん〜はわかき事情、道の理一つの心なら、いつ〜たのもし、これまでの處、何んぼはたらいたて、くれた教祖の理を思へ、存命の間たのしみの理もなく、理をみずくれた、教祖の理をみよ、はたらけばはたらくだけ、めん〜心にまことさへあれば、ふみそこないはない、これさとしたらわかるやらう、はたらいたらはたらいたゞけ、これから見えるのや、ようきいておかにやならん。

—(3997)—

明治三十年十二月二十四日

高安部内信東出張所設置願 (長野縣南佐久郡北牧村字本間三百五十五番地、擔任坂内萬藏)

さあ〜たづねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

右地方廳へ出願の願

さあ〜たづぬる事情〜、さあ事情すぐと〜。

明治三十年十二月二十四日

城島部内田中出張所三十一年一月四日鎮座祭五日開筵式願（併て月次祭舊十一日説教新十一日鳴物御紋願）

さあ〜たづぬる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

明治三十年十二月二十四日

河原町部内甲賀支教會隣地買求願

さあ〜たづぬる事情〜、さあ事情はさあ心だけ〜、さあゆるしおかう〜。

教祖様御靈舎並に客室建築願

さあ〜尋ねる事情〜、事情はねがひどほり〜にゆるしおかう〜、さあ心だ
け〜、さあ心だけゆるしおかうのやて。

石搗石据及棟上の願

さあ〜たづぬる事情〜、事情はねがひどほり〜、さあゆるしおかう〜。

同部内中島出張所役員の家及便所建築願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう
〜。

明治三十年十二月二十四日

城法部内箸尾布教所擔任北口彌平死亡に付杉田三代造後任に願

さあ〜尋ねる事情〜、ぜん〜事情一つ事情よぎなく一つ事情、又一時もつて
かうといふ處、尋ねる事情はねがひどほり〜、さあ〜ゆるしおかう〜。

同部内吉淀布教所移轉願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ事情はねがひどほり〜、さあゆるそ〜。

地ならし願

さあ〜たづぬる事情〜はゆるしおかう〜。

明治三十年十二月二十四日

山澤爲造小人みきの及さわの二人身上に付願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ〜小人事事情又一時事情〜、又一つといふはどう

いふ事である、何がまちがふである思ふ處、小人何も事情なきもの、親々一つ事情、みなたてやふてある、たてやふてある、心といふもの、これからたすけやいは第一、たすけやいは第一、ならん／＼事情これから心といふ理、つなぎやふたる理だんじあひ、たがひ／＼たすけやひ、そこでならん處理あればそだて、やらにやらん、ようきゝわけてをさめは、小人たる處はあざやかこれきゝわけて、さうやなあといふ處治めてくれ。

明治三十年十二月二十四日

山澤由松身上伺 (二十六才十一月十八日より大熱病に罹り)

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあ一時身上がどうも、身上こゝろえん、いかな事であらうと思ふ處尋ねる、尋ねば一つさとしおかう、身上の處、大層である、大層は大層の心をもつて早くつたへて、どうでもかうでもと云ふは、一寸事情はやくさしかゝる、どうなつたと思ふ處、これまで年々の處、道の爲め、運びかけたる處、心の理はうけとるなれど、一時身上大層なれど、よくきゝわけて、一時事情これから

さきながくもつて事情、あちらへこちらへこれからむこなあとと思ふ處、日々であらう、そこでなるべくもつて助けるといふ、事情運んで早く事情／＼。

明治三十年十二月二十五日

城島部内水間出張所講社一統協議の上田原支教會へ所屬替の願

さあ／＼たづぬる事情／＼、さあ／＼ぜん／＼には事情一つ一時事情またかうといふ、みなおなじ十分の心、またこちらとおなじ心／＼、おなじ心と／＼なら、そらゆるしおこ／＼。

明治三十年十二月二十五日

櫻井部内宇智出張所擔任宇惠準治の處吉本松太郎に變更願

さあ／＼たづぬる事情／＼、ぜん／＼事情一つ、さあ一時事情かうといふ事情は、それ／＼心一つ理にてゆるしおかう／＼。

明治三十年十二月二十五日

清水與之助咳に付願

さあ〜尋ねる事情〜、さあ身上どうも一つ心得ん〜、思ふ處、さあ〜たづねる事情〜、いくへ一つ尋ねにかはりたさしづなく、身上どうでもあさやかならん、なにがまちがふ、かうであらう、どういふ事であらう、心の理は思ふまで、一つ理、道のどうりは一つ〜、萬事の理は一つ、おもふ理は一つ、事情萬事かゝるやろ、めへ〜かうと心運ばにやならん、萬事一つの理ある、この一つの理の中の理であつて、この一つの事情さとしおかう、この一つの理、なんでもかでもちひらにやならん〜、なれどどうと心をもつなく〜、事情はさしづどほりもたれつけ〜、萬事さとしおかう、ようきゝわけて、三才童子といふ、心をもつて道をさめ、たゞ一つしかあらせんで、身上どうといふ心いらんで、よくきゝとれ〜。

明治三十年十二月二十九日

吉川宗七妻たけ身上願

さあ〜尋ねる處〜、ぜん〜にこれまで萬事の處事情一つの處さとしある、やう〜の處さうであるときをさまる、又身上一寸にはいかんとさとしたる、だん

〜これでよからうとおもふ、又一つ心得んこの一つ事情わかるまい、よう事情聞いて内々の事情どうしようかうしよういふまで、内々にはこれでなあ、日々さむしい心をもたず、身上ながく事情どうなりとしてとおもふ、一時あさやかならん、日々の處一事情、内々よほど定め、いまゝで大きに行くは大きくなるしやんなれど、元もなく末もなしでは何もならん、天よりあたへはきまりある、一つ實といふ〜はよはい心、よう聞分けにやならん、どちらこちらからつ〜く理はよはい心がつ〜く、よはい心がつ〜く、かる荷はどこまでももつてゆける、まいにちかるい荷はもつて通れる、おもい荷はとほく行けん、むかうへもゆけねばあとへもゆけん、これから一つさとれ、親一つ内々一つ事情ようしやんせにやならん、ほそ〜ほそいものよはいもの、よはいものがかたい、ふといものはもてん、こんなさしづはないほどに、ものに理がつ〜いてのさしづやで、身上不足よほど大そう事情しいかり定めてくれるやう。

明治三十年十二月三十日

松村吉太郎足の障りに付願

三八八

さあ〜たづねる事情〜、身上に事情どうも心得んといふ、いかな事情、たづねるには一つ心といふ理をもつてたづねる、心にもつてたづねる理なら、一つの理もさとさう、さしづはおろかにはおもはれん、同じ一つの理をみなさとすのや、ようき、わけねばあざやかわからん、さしづの理があざやかわからねば、心の理もあざやかならん、それ身上といふ、あざやかとは云へやうまい、いろ〜事情心にどうなるかうなる、おもふ理はなきもの、たつた一つの理がみちといふ、せかいといふ、教一つの理にはかはつた理はない、かはつた事情はみな心といふ、心はいくへの理にもはかれるもの、身上心得ん、めい〜おもふ理が心得ん、おもなる處しなる處、よい事もわるい事もみな一つの處へあつまりくる、心といふ理からまんぞくあたへにやならん、何んでもかでも、これだけといふ理はいらんもの、まんぞく一つの理より道をつくる、心のつくし心のはこび、萬事の處夜もねられやうまい、

—(4004)—

なれど一つようき、わけ、よる〜くるしまんならんみちではあるまい、一人の理やない、みんな同じ一つの理を、一人にさとする理、めい〜これよりだん〜どんな事情あるとも、ならん事情かさなつてくるともわからん、心もさわがしてあらう、さわがし中に身上に事情あれば、そのけほつておかにやなるまい、ようき、わけ、それ〜いさ、かなるもたんのふ、多分の理もたんのふ、いささかのなるものは、なほもたんのふ、もうこれまでであつまれば、中にみんなそれ〜心を合せてはこぶ處、ようさとしてめい〜もなるべくだけは、たんのふしてか〜らにやならん、自分たんのふすれば、先きはたんのふ、めい〜ふそくおもへば、先きのふそくはなんぼもしれん、身上ふそくからたづねたら、かういふさしづあつたと、心よつたる、みな〜の理にさとしてくれるがよい。

押して、たんのふの理に付伺

さあ〜分教會一條、あるないは一つの理、いさ、かなるもたんのふ、多分もたんのふ、めい〜ふそくおもへば、さきのふそくはなんぼもしれん不足になるで。

三八九

—(4005)—

明治三十年十二月三十日

増田橋枝身上願

三九〇

さあ〜たづねる事情〜、身上一事情たづねる處〜、これまで事情なんどの事情、たづねる事情にはいくへのたんのう、ならん〜中の理も一つの理にあつめて受取る理もある、身上と云ふ、一時事情どうとは云はうまい、なれどよほどの事情におよんだる、たづねるから一つさとさう、これまでと云ふ、なか〜の道やう〜の日、どんな日もあつたなれど、けふの日たんのうさしてやさしき心をもつてなぜさすりの理、たんのうの理ををさめてくれるがよい。

押して願

さあ〜事情これだん〜事情があるから、人一人の心に道にしたならこそ、たんのうさすのやで、人に一つのたんのうさ〜にやならん。

昭和四年七月廿二日印刷
昭和四年七月廿六日發行

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地

編纂者 天理教教義及史料集成部

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地

發行者 中正善

奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城三〇九番地

印刷所 天理教教廳印刷所

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島三二二番地

印刷者 植田五郎



終

